

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」



【海草振興局】わかやま布引だいこん優良品種試験の調査

令和7年1月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

	頁数
<b>I 海草振興局</b>	<b>1-2</b>
1. わかやま布引だいこん優良品種試験	
2. 品種開発の現場から農業を見る	
3. 和歌山市新規就農者受入協議会が設立総会を開催	
4. インドネシア研修生の地方研修	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>3-4</b>
1. 令和6年度 農業者研修会を開催	
2. 県オリジナル品種「紀州てまり」せん定研修会を開催	
3. 令和6年度 岩出市農業士会現地研修会を開催	
4. 紀の川市環境保全型農業グループが研修会を開催	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>5</b>
1. 橋本市内の小学校でみそづくり伝承活動を実施	
2. 「匠の技 伝道師」による富有柿せん定研修会を開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>6</b>
1. クビアカツヤカミキリ対策研修会を開催	
2. 有田地方4Hクラブプロジェクト・意見発表会を開催	
<b>V 日高振興局</b>	<b>7</b>
1. 由良町農山漁村女性の日交流会を開催	
2. 令和6年度日高地方青年農業者会議を開催	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>8</b>
1. 西牟婁地方農業士会連絡協議会が先進地研修会を開催	
2. いちご生産者を対象にスマート農業勉強会を開催	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>9</b>
1. 東牟婁農業青少年クラブ視察研修会を開催	
<b>VIII 農林大学校</b>	<b>10</b>
1. 東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会	
<b>IX 経営支援課</b>	<b>11</b>
1. 県農業士会連絡協議会が奈良県への県外研修を実施	
2. 和歌山県4Hクラブ連絡協議会が青年農業者会議を開催	

# I 海草振興局

## 1. わかやま布引だいこん優良品種試験

和歌山市布引地区はだいこんの産地であり、砂地で栽培されるだいこんは肌が白く滑らかで身もみずみずしく柔らかいことが特徴である。令和3年5月には、「わかやま布引だいこん」として地理的表示制度（GI）にも登録されており、市場から高い評価を得ている。

農業水産振興課ではJAわかやまと連携し、「わかやま布引だいこん」のさらなる品質向上を目指して、品種試験を行っている。

調査は11月から順次実施しており、根身の太さや葉の長さ、形や食味などを計測し、慣行品種との比較を行っている。

今後、試験結果をもとに部会員らとどの品種が有望か検討するとともに、有望と思われる品種については引き続き試験を行っていく。



品種調査の様子

## 2. 品種開発の現場から農業を見る

和海地方青年農業経営者協議会（会長：山本達弥氏）では種苗会社の育種の状況を学び農業経営に活かすため、奈良県橿原市のナント種苗株式会社飛鳥育種農場で県外研修を行った。新型コロナウイルス蔓延にともなう行動制限から4年ぶりの県外研修であり、5名が参加した。

訪問した1月31日時点でトマト、たまねぎ、キャベツ、花野菜が作付けされ、データ収集が行われていた。各品目のほ場で育種担当者から生産性、品質、耐病虫性等の育種目標についての説明を受けた。特に近年は温暖化に対応できる品種の育成が必須になっているとのことであった。一方、参加者からは自身の栽培体験を語ると共に、育種への意見や要望を伝えた。

このように生産者と種苗会社等関係者が連携し、情報・意見交換をすることでより価値ある農産物生産につながればと考えている。



ナント種苗株式会社飛鳥育種農場の視察

### 3. 和歌山市新規就農者受入協議会が設立総会を開催

1月27日、和歌山市で就農を希望する人を担い手として育成することを目的とした和歌山市新規就農者受入協議会が設立された。本協議会は和歌山市農林水産課を中心に、わかやま農業協同組合や和歌山市農業委員会、受入農家で組織され、当課はオブザーバーとして参画する。

研修希望者は、年間カリキュラムに基づき和歌山市内の受入農家から研修を受けることができるほか、関係機関と相談しながら就農に向けた準備を整えることができる。

今後、本協議会の活動により、和歌山市の農業をけん引する人が増加することを期待する。



総会の様子

### 4. インドネシア研修生の地方研修

1月15日及び16日に、アジア食料生産力向上農業人材育成事業の地方研修が実施された。海草管内の柑橘農家が研修生を受け入れていることから、今回研修に同行した。研修では、畜産課から和歌山県での養鶏について、高原性鳥インフルエンザについて話があった。研修生は熱心に聞き、「インフルエンザに罹病した鳥は薬で治療できないか」など質問をしていた。

その後、果樹試験場で研究成果の紹介や業務内容について説明があり、場内見学も行った。また、さまざまな柑橘品種の紹介があり、実際に見て試食し、良い体験になったと思われる。研修生は来日した当初に比べ見違えるほど日本語が上達しており、今回の研修内容も理解できているようだった。日本の研修で学んだことを今後インドネシアの農業に役立ててもらいたい。



畜産課からの講義を聞く研修生



柑橘を試食する研修生

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 令和6年度 農業者研修会を開催

1月16日、那賀地方農業改良普及推進協議会(会長:岸本 健氏)と那賀地方農業士会(会長:山本佳彦氏)の共催で、管内農業者を対象とした「令和6年度農業者研修会」を開催し、15名が参加した。

フュイナムデザインワークスの松島 司氏を講師に迎え、「自分たちの農業をSNSで発信しよう」と題して、SNSの種類や仕組み、特徴などについての説明のあと、今回はInstagramについて、事例を交えながら、始め方や効果的な活用方法について解説された。

講演後、参加者からは、自身の経営に合わせた効果的な使い方やより高度な活用方法など多くの質問があった。終了後のアンケートでは、より具体的な活用方法を知りたいとの意見が多かったので一歩進んだ内容で研修会が開催できるよう検討することとしている。



開会の挨拶をする山本会長



松島氏による講演

### 2. 県オリジナル品種「紀州てまり」せん定研修会を開催

1月24日、那賀地方農業改良普及推進協議会(会長:岸本 健氏)では、那賀地方で栽培が増加している「紀州てまり」の特性把握と栽培技術の高位平準化を目的として、管内の紀州てまり栽培届出者(約200余名)を対象としたせん定研修会を、かき・もも研究所において開催した。

かき・もも研究所熊本主任研究員を講師に、約40名の栽培者の参加があった。

研修では紀州てまりの品種特性として、樹勢が弱く、結果枝自体も柔らかいことから着果すると枝先が下垂傾向となるとの説明があり、樹勢を維持するために結果枝の数を制限することで下垂を抑制するせん定方法について、実演を交えた講義であった。



せん定研修会の様子

### 3. 令和6年度 岩出市農業士会現地研修会を開催

1月28日、岩出市農業士会(会長:吉村 学氏)では、令和6年度の現地研修会を開催し、会員5名が参加した。

本年は、奈良県の農業研究開発センターを訪問し、担当者から奈良県における農業技術の研究開発システムやそれぞれの研究部門の取組状況について説明を受けた。

その後、花き及び野菜の試験ほ場等を見学し、花きでは鉢物の栽培や輸出用の枝物栽培の研究について、野菜では研究課題のいちごの育種や栽培方法について説明を受けた。会員は自分の経営と関係する課題について、それぞれ研究員に質問し、有意義な研修となった。



農業研究センター全体の説明を受ける会員

### 4. 紀の川市環境保全型農業グループが研修会を開催

1月30日、紀の川市環境保全型農業グループ(会長:小林 元氏)は特別栽培のももとキトサンの研修会を開催し、会員11名が出席した。

講師に株式会社ハートランドの瀬尾義治氏を迎え、キトサンの活用について講演いただいた。講演内容は、キトサンを活用する前の土づくりの話から始まり、耕さない農業やカバークロープの活用、土に炭素を取り込むことの大切さなど幅広い内容だった。

その後、特別栽培のももに取り組んでいるグループ員と、参加者で意見交換会を行った。ももでせん孔細菌病が多かった時に、キトサンと農薬を混合し散布し効果があったことなどの事例発表も行われた。

参加者からは、「キトサンだけでなく土づくりについて幅広い話が聞けて、とても良い研修会だった」との感想があった。



キトサンの活用についての講演



特別栽培のもも栽培メンバーと意見交換

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 橋本市内の小学校でみそづくり伝承活動を実施

昔から地域で作られている米みそを後世に伝承し、食育の推進を図るため、1月15日～17日に隅田小学校の5年生43名、1月28日～30日に橋本小学校の4年生57名を対象に、みそづくり体験を実施した。

橋本市生活研究グループ連絡協議会員が講師となり、1日目は、みその種類やみそづくりに必要な材料、手順などの説明や、米麴づくりを行った。2日目は米麴の生成状況の確認と大豆を浸漬した。最終日は、水に漬けた大豆を煮、挽いたものを米麴と混ぜ合わせ、団子状に丸めて容器につめる仕込みを行い、熟成までの管理方法や期間について説明を行った。

児童たちから「(米麴は)醤油みたいな香りがする」、「みそができる1年後が楽しみ」などの感想があがった。



講師によるみその説明



みその材料を混ぜる作業

#### 2. 「匠の技 伝道師」による富有柿せん定研修会を開催

九度山町の中谷裕一氏は、富有柿の高糖度栽培に関する卓越した技術を持ち、令和3年度に和歌山県知事から「匠の技 伝道師」に認定されている。

今回、農業水産振興課では1月20日に九度山町のかき園において、中谷氏が持っている優れた技術を次世代に継承するため、研修会を開催した。当日は、雨上がりの晴れの中、6名の農家が参加した。

中谷氏から、かき園において、「まず、主枝の先端を決める」、「主枝、亜主枝、側枝の配置は、二等辺三角形にする」等の基本的な技術の講義の後、匠の独自の技術について実演を交えながらわかりやすい講義が行われた。参加した農家から、「主枝や亜主枝を切り返し太さの大きな違いある場合の枝のせん定方法」「側枝のせん除に迷った場合のせん定方法」等の質問があり、中谷氏から明確な回答があった。

今後、研修会を受講した農家から「匠の技 伝道師」の継承者が現れることを期待している。



研修会の様子

## IV 有田振興局

### 1. クビアカツヤカミキリ対策研修会を開催

昨年6月、有田地域のさくらでクビアカツヤカミキリの被害が初めて確認され、本年1月時点で地域内のうめ、すもも、さくらに累計23本の被害樹を確認している。これを踏まえ、1月15日に対策研修会を開催した。研修会には、有田地域の農家、関係者など21名の参加があり、普及グループ山本技師及び振興グループ足立主査から本種の生態、有田地域内の被害状況、被害樹への対策及び県による支援策について説明した。参加者からは、うめ、すもも、さくら以外にどのような樹種が被害にあうかとの質問があった。

クビアカツヤカミキリの被害拡大を防ぐためには、被害樹を早期発見し、成虫の拡散、繁殖を防ぐように伐採・伐根、薬剤散布、ネット巻きなどの対策を産地全体で取り組んでいくことが重要である。当課では、関係機関や生産者と連携して防除対策に取り組んでいく。



研修会の様子



クビアカツヤカミキリなどのフラス

### 2. 有田地方4Hクラブ「プロジェクト・意見発表会」を開催

1月17日に有田振興局において有田地方4Hクラブ「プロジェクト・意見発表会」を開催した。本会議は、青年農業者が直面する課題の解決方法や発展方向を見いだす研究成果や経営内容を発表し、クラブ員の資質向上と相互交流を図ることを目的に開催している。

今年度は、南広4Hクラブの石川貴也氏が「ターム水和剤(1-ナフタレン酢酸ナトリウム)を使用した下部全摘果の省力化について」と題しプロジェクト発表を行い、有田川町4Hクラブの辻岡誠之氏が「企業からの依頼 有田川町4Hクラブの挑戦」と題し意見発表を行った。発表後、参加したクラブ員や農業水産振興課職員から活発な意見交換が行われた。発表した2名は1月28日の令和6年度和歌山県青年農業者会議で発表し、辻岡氏が優秀賞を受賞した。

また、令和6年度近畿地域農業青年会議で発表予定の有田川町4Hクラブ小川祐司氏が「柑橘栽培におけるドローン防除の可能性について」と題し、プロジェクト発表を行い本番での健闘を誓った。



クラブ員によるプロジェクト発表

## V 日高振興局

### 1. 由良町農山漁村女性の日交流会を開催

1月11日、由良町農山漁村女性の日推進会（会長：片山綾子氏）が由良町中央公民館で交流会を開催し、会員と関係者40名の出席があった。

この交流会は、由良町の女性団体（農業士、生活研究グループ、JA紀州女性会、漁協女性部等）が3月10日の「農山漁村女性の日」を前に毎年開催している。

今回は、紀州日高漁業協同組合おさかなママさんによる魚のさばき方や魚料理、生活研究グループによるジビエ料理の紹介と、出来た料理を試食しながら、両グループによる活動報告が行われた。参加した会員からは「由良町を盛り上げていくために協力していきたい」という意見が多く聞かれた。



ジビエ料理の紹介



あじフライと鹿肉の竜田揚げ

### 2. 令和6年度日高地方青年農業者会議を開催

1月17日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：大野寿也氏）と日高振興局農林水産振興部が共催で、令和6年度日高地方青年農業者会議を開催し、関係者含め23名の出席があった。

会議では、印南町4Hクラブの「4Hクラブで取組むシカ対策」、みなべ梅郷クラブの「うめのPRのために～冷凍青梅を活用した販売促進活動～」のプロジェクト発表2課題と御坊市4Hクラブ連絡協議会の「地元の農業を守る」の意見発表1課題について、農業技術や経営、地域づくりのために取り組んでいる成果を発表した。

今年度からは、前年度までの審査による順位付けを廃止し、普及指導協力委員はじめ農業関係者が、助言者として、活動経過の見せ方の助言や今後の展開への期待などを伝えた。助言者からの質疑や意見に発表者は真剣な面持ちで対応していた。

発表者は本会議での検討内容を精査し、和歌山県青年農業者会議に臨む。



クラブ員による綱領唱和



クラブ員の発表

## VI 西牟婁振興局

### 1. 西牟婁地方農業士会連絡協議会が先進地研修会を開催

1月31日、西牟婁地方農業士会連絡協議会（会長：家高 勇氏）は、三重県御浜町及び那智勝浦町において先進地研修会を開催し、会員15名が出席した。

三重県農業研究所果樹研究室では、菅原主任研究員により「みかんの日焼け果発生要因と対策技術」について研修した。参加者からは「ネットを被覆することで果実の糖度は低下しないのか」「強風でネットが飛ばされることはないのか」等の質問があった。

次に、那智勝浦町では東牟婁振興局農業水産振興課の高垣技師から、東牟婁地方の農業と普及指導計画重点課題について、太田喜文、美保御夫妻（共に指導農業士）から太田家の農業経営について説明を受けた。太田家では水稲（800a）は喜文氏、いちご（15a）は美保氏が中心と栽培管理を行っているということであった。

参加者からは「いちごは花が咲いて何日ぐらいで収穫できるのか」、「農地の貸借はどのようにしているのか」等の質問があった。



現地研修会の様子（那智勝浦町）

### 2. いちご生産者を対象にスマート農業勉強会を開催

1月21日、農業水産振興課は環境制御装置の活用や導入を検討しているいちご生産者を対象に、スマート農業勉強会を開催し、若手農業者5名が出席した。

西牟婁地域では、炭酸ガス施用機や環境モニタリング装置の導入など、スマート農業に取り組む生産者が増えており、当課では、令和6年度から普及指導計画の活動として、いちご栽培施設にデータロガーを設置し、生産者が温湿度や炭酸ガス濃度等の施設内環境の把握を行うとともに、収量や品質（糖度）、生育調査とあわせて、測定データや調査結果を栽培管理に活用するための取組を支援している。

農業試験場の小川主任研究員を講師に迎え、炭酸ガス施用の効果的な活用方法や炭酸ガス施用時の時期別の温度管理について説明を受けた。その後、生産者の施設に移動し測定状況を確認した。参加者は、自身の栽培状況やその改善点について質問を行ったり、参加者同士で積極的な意見交換を行った。

当課では、今後も施設栽培におけるスマート農業に取り組む農業者を支援していく。



講義を受ける参加者

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 東牟婁農業青少年クラブ視察研修会を開催

1月30日、31日に東牟婁農業青少年クラブが視察研修会を開催した。今回は、那智勝浦町内でピーマン、ししとうなど野菜の栽培をしている蔬菜園芸会との合同での開催となり、12名の参加者があった。

1日目は大阪府泉佐野市においてハウス栽培の水なす、露地栽培のキャベツのほ場を見学した。農薬、肥料の使用量を半分以下にして栽培された、大阪府独自認証のエコ農産物についての説明や、温度管理や二酸化炭素管理を行うスマート技術などについて説明があった。

2日目は和歌山市で新しょうがのほ場を見学した。しょうがをきれいにつくるための水分管理や、病気発生を予防する土壌管理の方法など、栽培技術に関することについて丁寧な説明があった。

クラブ員からは各日ともに多数質問があり、非常に勉強になり充実した研修会だったとの声があった。今後もクラブ員の資質向上と相互の交流を目的に、活動を支援していく。



水なす（大阪府泉佐野市）



キャベツ（大阪府泉佐野市）



新しょうが（和歌山市）

## Ⅷ 農林大学校

### 1. 東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会

1月16日、17日の両日、三重県農業大学校にて「東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会」が開催され、本校からは2名の学生が出席した。

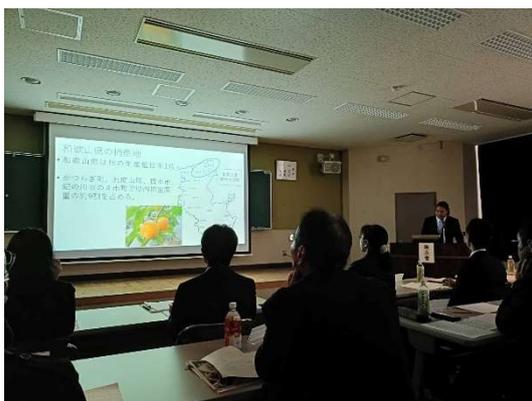
本発表会は、日頃の学習成果を発表・共有し、農業への意欲を高めるとともに、相互の研鑽を目的として行われている。

初日には研究発表及び意見発表が行われた。研究発表の部では、本校2年生果樹コースの尾田大聖さんが「『紀州てまり』の幼木における適正着果量の検討」という課題名で発表した。また、意見発表の部では、1年生果樹コース東本滉平さんが「繋がりの中で生きる」というタイトルで発表を行った。他府県の参加者もそれぞれ独自の工夫を凝らした発表を披露した。

残念ながら本校から全国発表会への選出は叶わなかったが、2人ともこれまでの取り組みや意見を堂々と発表した。

2日目には、農業大学校に隣接する「農業研究所植物工場」を現地視察し、参加校の学生同士で交流を深める機会となった。

本校では今後も、全国大会出場を目指して学生の指導に力を入れていく。



研究発表の様子



意見発表の様子

## X 経営支援課

### 1. 県農業士会連絡協議会が奈良県への県外研修を実施

1月9日、10日に和歌山県農業士会連絡協議会は奈良県への県外研修を実施し、13名が参加した。

初めに有機農業を実践している宇陀市の山口農園を訪れた。山口農園では、リスクヘッジの観点から葉菜類のみを周年出荷していること、中古ハウス資材を活用してコストを抑えていることなど、工夫している点を聞くことができた。次に訪れた平群町の平群ローズでは、ばら栽培や苗生産について研修した。翌日は、大和郡山市でいちごを栽培している今西農園を訪れた。今西氏はいちごの他、大和なす、水稻、いちじくを栽培しており、参加者からは「土は何を使っているのか」、「コメはいくらで販売してるのか」など多くの質問があがった。

参加者からは、勉強になったという感想が聞かれた。隣県であることから、今後も交流を続けていきたい。



山口農園で農園の概要を聞く参加者



今西農園のいちごハウスを見学

### 2. 和歌山県4Hクラブ連絡協議会が青年農業者会議を開催

1月28日、和歌山県4Hクラブ連絡協議会は公益財団法人和歌山県農業公社と共同で、海南 nobinos において和歌山県青年農業者会議を開催し、クラブ員や農林大学校生、農業関係高校生ら116名が参加した。

会議では、クラブ員が地域や自らの課題解決等に取り組むプロジェクト活動発表や、農業に関する自らの主張を発表する意見発表について、各地方から発表を行い、審査の結果、印南町4Hクラブの夏見亮佑氏が最優秀賞を受賞した。

また、農林大学校生や高校生からもプロジェクト発表、意見発表をそれぞれ1課題ずつ発表した。

その後、参加者らは9つのグループに分かれ、自身が思う目指すべき農業や自らの農業に関する夢について、意見交換を行った。意見交換後のグループ発表では、多くの前向きな意見が出され、クラブ員にとっても刺激となったことがうかがえた。



クラブ員によるプロジェクト発表



グループに分かれて意見交換

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489